◎「先人たちが築いた絆、大切にしたい」＝駐日ドイツ大使訪問で栃木県下野市の坂村市長

24/04/26 21:06 NJ014

栃木県下野市を訪れたクレーメンス・フォン・ゲッツ駐日ドイツ大使（左）と撮影に応じる同市の坂村哲也市長（同市提供）

栃木県下野市とドイツのディーツヘルツタール市の姉妹都市関係が来年５０周年となるのを前に、クレーメンス・フォン・ゲッツェ駐日ドイツ大使が２３日、下野市を訪れ、坂村哲也市長と会談した。両市は中学生らの相互訪問を通じて相手の文化に対する理解を深めるなど息の長い交流を続けており、坂村市長は「先人たちが築いてきた絆をこれからも大切にしたい」と話した。

両市が姉妹都市となったのは、下野市が合併前の石橋町だった１９７５年。ディーツヘルツタール市の前身だった当時のシュタインブリッケン村が、日本語に直すとシュタイン＝「石」、ブリッケン＝「橋」の意味だったことがきっかけという。

大使は、雑木林を生かしたドイツ風の外観で、グリム童話の絵本・研究書などをそろえた図書コーナーや３００人収容の多目的ホールがある「グリムの館」をはじめ下野市のドイツ関連施設を視察。高度な医療体制を整えた市内の自治医科大学付属病院も訪れた。

同市幹部によると、大使は移動中の車の中などで「ドイツとの友好的な関係が感じられて良かった」と語るとともに、自治医大付属病院と独ミュンヘンの大学病院との交流を「非常に価値が高い」と評価し、交流継続を強く願うと話したという。（了）

関連情報

人物	坂村哲也氏のプロフィール

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.